

高 事 第 167 号
平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

高取町長 植村 家忠



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成 20 年 9 月 19 日付、国道企第 37 号で依頼のあったこのことについては、
別紙のとおりです。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

奈良県高取町

道路整備についてはまだまだ都市と地方ではその整備上に格差が生じている、と考えます。

近年都心の生活上の利便性が見直されて、「住む街」「生活する街」として注目されつつあります。

一方、地方では住民の高齢化が日本社会が今まで経験したことがないほど急速に進むことが予想されます。

そこで求められるのが「ひとにやさしいまちづくり」としての道路行政である、と考えます。いわゆる社会的弱者と言われる人にたいしてのやさしい道路行政が求められると考えます。

道路行政を単なるハード事業と捉えて道路は十分充足している、という見方ではこれからの道路に対する住人の要望には応えられないと思います。

②-1 地域の現状と抱える課題

奈良県高取町

○現状

道路網の整備は、住民意向調査でも上位にあり、まちづくりを進めていく上で重要な都市基盤の一つととらえている。

広域幹線道路として国道169号があり、橿原市、明日香村方面と大淀町、吉野方面を結んでいる。平成5年に新芦原トンネルが開通し、円滑な流れが確保されている。しかし芦原トンネル以南、高取町内から明日香村にかけては朝夕の停滞が激しく、付近住民からの苦情も多く寄せられている。

主要地方道橿原高取線が本町中心部と橿原市を、県道五條高取線が本町中心部と五條市を結んでいるほか、明日香清水谷線や馬佐清水谷線などの県道がある。

このほか、東部で整備が進められているふるさと農道をはじめ、主要な町道なども道路ネットワーク上、重要な機能を担うものとして位置づけている。

○課題

将来の高取町をはじめ、沿道の各市町村の活性化をめざして、バイパスの早期完成が期待されている。

主要地方道橿原高取線については、平成2年に森バイパスが供用開始されるなど整備が進められているものの、そのほかの路線はいずれも未整備な所が多く残されている。

今後、広域的な幹線道路の整備を促進し、これにつながる道路の整備を進めるなど、利便性が高く、バランスのとれた基盤整備を進める必要がある。

このとき、中心市街地における通過交通を排除し、歩行者を重視した道路のネットワーク化を図るとともに、地域間や集落間を連絡する道路整備を促進するほか、快適で親しみやすい道路環境の創出にも配慮することが望まれる。

②-2 地域の目指すべき将来像

○国道169号の整備

- ・歩道の拡幅整備、主要な交差点における交差点改良など沿線環境の改善の要望。

○国道169号バイパスの整備

- ・国道169号橿原高取バイパスの整備促進。

○町と町外を結ぶ地域幹線道路の整備

- ・主要地方道橿原高取線歩道部分の拡幅整備。
- ・県道五條高取線バイパスの整備の要望。
- ・県道五條高取線の部分改良促進。
- ・県道明日香清水谷線の改良促進。
- ・その他の幹線的道路の道路体系上整合性を持ったネットワークの形成。

○その他幹線的道路の整備

- ・県道馬佐清水谷線の整備。
- ・町道市尾駅兵庫与楽線の整備
- ・壺阪山駅周辺整備にともなう関連道路の整備。
- ・集落内道路の整備。
- ・集落から幹線道路につなぐ道路の整備。